



令和4年 10月7日
 富士市立伝法小学校
 校長 鳥居 朝野

朝晩は秋らしさを感じるようになりましたが、まだまだ厳しい残暑の毎日となっております。夏休みが終わって、1か月。子どもたちは、コロナ対策を意識しながら、勉強や運動、そして友達との楽しい時間を笑顔で過ごしています。

さて、7月には、「教育に関わるアンケート(保護者回答)」にご協力いただき、ありがとうございました。皆様が感じている子どもや学校への思い、そして、子どもたちが大きく健やかに成長してほしいという願いが、集計結果に表れていました。この結果を生かし、今後の教育活動をさらに発展させていきたいと思えます。ご家庭でも、今回の結果に目を通して、お子様と学校のことについて話す話題の1つとしてみてください。

令和4年度 教育に関わるアンケート結果(前期)

肯定・・・評価A(そう思う)+評価B(どちらかと言えばそう思う)分析 ○:満足(80%以上肯定) 否定・・・評価C(あまりそう思わない)+評価D(そう思わない) ▼:課題(50%以上が否定)				
番号	評価内容(カッコ内は教職員)	対象	肯定割合	分析
1	子どもたちは、楽しく学校生活を送っている。	児童	95%	○
		保護者	98%	○
		教職員	97%	○
2	子どもたちは、伝法小学校と吉原小学校、吉原第一中学校は、「あこがれ・チャレンジ・笑顔」という同じ学校教育目標になっていることを知っている。(目標を意識して生活している。)	児童	81%	○
		保護者	84%	○
		教職員	79%	
3	子どもたちは、重点目標「心をつなごう」を意識して学校生活を送っている。 (「心をつなごう」に向けて教育活動に取り組んでいる。)	児童	88%	○
		保護者	74%	
		教職員	96%	○
4	子どもたちは、自分が住んでいる地域が好きである。家庭で、地域のよさを話題にすることがある。(小中一貫教育の考えが深まっている。)	児童	96%	○
		保護者	40%	▼
		教職員	75%	
5	地域の人が、学校のために活動をしていることで、学びや学校生活がよりよくなっている。(CSディレクターと連携し、地域の人・もの、社会との関わりを深めている。)	児童	97%	○
		保護者	94%	○
		教職員	79%	
6	子どもたちは、だれにでも進んであいさつができています。	児童	89%	○
		保護者	82%	○
		教職員	64%	
7	子どもたちは、「ほかほか言葉」を使って話している。	児童	91%	○
		保護者	81%	○
		教職員	82%	○
8	子どもたちには、悩みや困ったことなどを相談できる人がいる。(悩みや困ったこと相談している。)	児童	86%	○
		保護者	93%	○
		教職員	93%	○
9	自分たちの学校がきれいになるよう、進んで掃除をしている。家庭で、自分が使った場所をきれいにしている。	児童	94%	○
		保護者	56%	
		教職員	82%	○
10	子どもたちは、自分にはよいところがあると思っている。(よさを認め励ますために意図的な関わりや場面を設定している。)	児童	83%	○
		保護者	91%	○
		教職員	93%	○
11	子どもたちは、授業(学習したこと)が分かっている。	児童	92%	○
		保護者	86%	○
		教職員	89%	○
12	子どもたちは、自分の考えを友達にわかりやすく話したり、友達の考えを最後まで聞いたりしている。(自分の考えをわかりやすく話したり、話を最後まで聞いたりする力が付いてきている。)	児童	91%	○
		保護者	77%	
		教職員	72%	
13	子どもたちは、チャレンジノートなど、自分から進んで学習に取り組んでいる。家庭で学習する「宿題を含む」習慣がある。(家庭で学習する習慣が身に付いている。)	児童	81%	○
		保護者	89%	○
		教職員	86%	○
14	子どもたちは、分からないことや疑問に思ったことを、友達や先生に訊いている。	児童	87%	○
		保護者	78%	
		教職員	82%	○
15	子どもたちは、学校・家庭でタブレットやパソコンなどを使って学習している。家庭でタブレットやパソコンを使って学習することがある。(ICT機器を活用して授業を行っている。)	児童	92%	○
		保護者	67%	
		教職員	79%	
16	子どもたちは、運動に楽しく取り組んでいる。(体を動かすことを楽しんでいる。)	児童	91%	○
		保護者	90%	○
		教職員	97%	○
17	子どもたちは、毎日「早寝・早起き・朝ご飯」ができています。家庭で「早寝・早起き・朝ご飯」を意識した生活を送っている。(規則正しい生活習慣を身に付けられるよう、取り組んでいる。)	児童	79%	
		保護者	89%	○
		教職員	89%	○
18	子どもたちは、毎日の給食を残さず食べている。家庭で食事のとき、好き嫌いをせず食べている。(苦手な食べ物でも、少しは食べられるようになったり、食の大切さを感じたりしている。)	児童	82%	○
		保護者	70%	
		教職員	79%	
19	子どもたちは、きまりを守ってけがをしないよう安全に生活している。家庭で、犯罪被害や交通事故を防止するための方法について話題にしている。	児童	91%	○
		保護者	88%	○
		教職員	71%	
20	子どもたちは、コロナウイルスに感染しないように、「手洗い」や「ソーシャルディスタンス」を心掛けている。(新しい生活様式を意識して生活している。)	児童	93%	○
		保護者	96%	○
		教職員	93%	○

集計結果について(考察)

よいあらわれ

◎学校が楽しいについて 設問1・16・20

「学校が楽しい。」と感じている割合が3者ともに高い数値となっています。子どもたちは、新しい生活様式に順応しながら、様々な制約の中でも学校生活を楽しんでいることが分かります。これからも、勉強や運動、友達と仲良く過ごすことを楽しむ子どもたちを、支えていきます。



◎学習関連について 設問11・13・14・15

「授業で学習したことが分かっている。」と感じている割合が3者ともに高い数値となっています。学校での主たる活動は学習です。学習が充実し、学びが深まるように授業では、「自ら考え、仲間とともに学び合う授業」を目指して教職員一同日々の授業改善に取り組んでいます。家庭学習の習慣が身に付いてきていることも「分かる。」につながっていると思います。各学年「学びのあしあと」のコーナーを設け、児童のチャレンジノート等を掲示しています。学校全体で学び合う環境をつくっています。引き続き、学校と家庭が連携して取り組むことが、子どもたちの更なるステップアップにつながります。また、低学年の児童にもタブレットが配備されました。授業での活用と合わせて、ドリルパーク等の家庭で行えるプログラムもあります。後期も、学ぶことが楽しいと思える学校を目指して努力していきます。



改善したいあらわれ

◎地域のよさについて 設問4

設問4については、昨年度に引き続き、感染拡大防止のため、地域の行事等が実施されないこともあり、家庭で地域のことを話題にしたり地域のよさを感じ取ることは難しいのかもしれませんが、しかし、地域の方や保護者の皆様に授業に入っただき、本物との出会いや体験活動などを取り入れることによって豊かな学びになりました。

各中学校区では、「たて(小・中学校)の接続」と「よこ(家庭・地域)の連携」を軸とし、9年間を見通した小中一貫教育を進めています。子どもたちは、学校や家庭だけではなく、学校・家庭・地域が協働し、様々な人と人とのつながりを通して、豊かな心の醸成や学びの充実を図っていきます。今後も、吉原一中校区で目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を見通した一貫性のある支援により、子どもの育ちや学びの連続性を保証していきます。また、コミュニティ・スクールの強みを生かし、今後も、地域の方々とともに、子どもたちの豊かな成長を支えていきます。

◎安全な生活について 設問19

「きまりを守ってけがをしないように安全に生活している。」では、子どもと保護者の数値はほぼ90%と高いのですが、教職員の数値は70%となっています。学校生活を振り返ると、防げる事故やけがが多いように感じます。前期は、大きな事故やけががなく過ごせましたが、ひやりとする場面もありました。学校では、定期的なきまりの確認をしたり、安全点検を実施したりして、子どもたちが安全に過ごせるように取り組んでいます。ご家庭でも、危険予知力を高めるなど「こうなったらどうなる。」と想像できることや判断の大切さを話題にさせていただき、安全に心掛けて生活できるように声掛けをお願いします。



心掛けていきたいこと

◎あいさつ、「ほかほか言葉」について 設問6・7

「誰にでもすすんであいさつができています。」では、子ども、保護者と教職員の数値に大きな差が見られます。感染症対策で元気にあいさつすることは難しいのですが、目を合わせて会釈してくれる子を見掛けました。声には出さないあいさつですが、温かい心が伝わってきました。今年度の伝法小学校の重点目標は「心をつなごう」です。あいさつは心を通い合わせるための第一歩です。あいさつの大切さを子どもたちと話し合い、更にあいさつの輪を広げ、心をつないでいけるように支援していきます。また、心をつなぐために言葉づかいもとても重要です。言葉づかいについて子どもたちの数値は高いのですが、学校でとても気になる子ども同士の会話を耳にすることがあります。自分自身の発言や行動を振り返り、社会性を身に付けていくためには、学校と家庭で協力して取り組んでいくことが肝要だと考えます。他者を思いやる想像力や判断力、コミュニケーション能力が子どもたちに育まれるよう引き続き支援していきます。

◎「早寝・早起き・朝ご飯」・食事について 設問17・18

上記以外に、設問17「規則正しい生活習慣」や設問18「食べ物の好き嫌い」についても、心掛けていきたいこととして挙げられます。

◎設問17の「早寝・早起き・朝ご飯」については、基本的な生活習慣は、安定した精神や集中力の基盤となります。特に睡眠は、精神の安定、免疫力を高めるなど前向きに生きる力を支えているため、小学校時代に身に付けていくことが重要です。

◎設問18の食事についても同様で、偏った栄養摂取や朝食欠食など食生活の乱れは成長期の子どもたちの健康に大きな影響を及ぼします。特にコロナ禍において、コロナ感染予防対策としても、バランスの良い食事を心がけ、規則正しい生活をすることは、抵抗力や免疫力を高める点でも大切です。



食に関する正しい知識と望ましい生活習慣を身に付けることができるよう、給食の時間を中心に、学校においても積極的に食育に取り組んでいきます。設問17、18ともに、本校の重点目標である「心をつなごう」の「命をつなぐ」であり、心身の健やかに成長していく力の基盤となります。引き続き、学校と家庭と両輪で、子どもたちの意識を高め、実践力が育まれるよう、支援をよろしく願いいたします。

これからも、保護者の皆さま、地域の皆さまとともに、様々な場面で頑張っている子どもたちの姿を認め、励まし、子どもたちの力をさらに引き出すことができるよう、職員一同努力していきます。